

## ベネズエラの大統領選挙をどう見るか③

### ▶内外のマスコミの報道

最近、内外の通信社、新聞、特に日本の TV 報道、NHK 国際、新聞、時事、共同、日経、朝日、毎日、読売、東京、赤旗は、次のような、まったく同じ論調です。

- 中南米 5 カ国アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コスタリカ、パナマが、野党のゴンサーレス氏勝利を表明した。米国やペルーも同様の認識を示している。
- 野党側は独自の集計結果などを基にゴンサーレス氏の勝利を主張した。
- ブリンケン米 국무長官は、『ベネズエラ大統領選で現職のマドゥーロ大統領が勝利したとした。選挙管理当局発表は何の根拠もないと批判し、野党候補ゴンサーレス氏の勝利は明らかである』との声明を発表した。
- メキシコ、コロンビア、ブラジル 3 カ国は、野党側の主張するように、投票所ごとの開票報告を提出すべきである。
- パナマがベネズエラ問題解決のため、与党勝利を認めない中南米の 17 カ国に会議の開催を呼びかけた。
- 投票所から得票を直接収集した野党陣営は、ゴンサーレス氏が約 720 万票を獲得し、マドゥーロ氏の 2 倍を超えたと主張している。
- 選挙監視団の米非営利団体「カーター・センター」も、今回の選挙を「民主的とは考えられない」と指摘。
- 仏独伊スペインなど欧州 7 カ国首脳は 3 日、共同声明を発表し、ベネズエラに対して、大統領選の詳細な集計結果を速やかに開示するよう求めた。「現職勝利」とした選管結果に疑問を呈する動きが弾圧されている状況について「大きな懸念」を示した。
- ベネズエラでは集計に不正があったと抗議するデモが広がり、マドゥーロ政権は抗議デモに絡んで 2,000 人以上を拘束した」。

これらの報道は、一部の野党が言う不正の内容を精査することもなく、そのまま鵜呑みにして、ベネズエラ選挙管理委員会の発表はのっけから誤魔化しと決めつけ、ゴンサーレスの勝利を主張する報道姿勢です。ゴンサーレスという人物がどういう過去をもっているか、マリア・コリーナが誰とつながっているか、アメリカがゴンサーレス、マリア・コリーナとどうつながっているか、アメリカの介入はないのかなど、まったく問題にしていません。ベネズエラの主権が侵されている事実には、いずれの報道も目をつぶっています。マドゥ

一口政権の評価とは別に、ベネズエラの主権は無条件に尊重されなければならないという原則が、一般紙とともに、赤旗紙にも見られないのは、憂慮されることです。これらのTV、新聞のまったく軌を一にした報道を見ると、大政翼賛会下のマスコミかと、見まがうような報道ぶりです。日本は、ここまで保守化しているのでしょうか。

#### ▶選挙後、ベネズエラ国内で各政党はどう動いているか

しかし、現実には、今ベネズエラ国内はどうなっているのでしょうか。

7月31日マドゥーロ大統領は、極右の統一プラットフォームのゴンサーレス陣営が、依然として独自集計に基づきゴンサーレスの勝利を主張している状況から最高裁判所（TSJ）選挙法廷に選挙過程、投票最終結果とサイバー攻撃を検証するための調査手続きを開始するよう求める選挙控訴を申し入れ、8月1日申し入れが承諾されました。それにより、最高裁判所（TSJ）選挙法廷は、選挙結果を徹底して調査するため、ニコラス・マドゥーロ、アントニオ・エカリ、エドムンド・ゴンサーレス氏、ベンジャミン・ラウセオ、ルイス・エドゥアルド・マルティネス、エンリケ・マルケス、クラウディオ・フェルミン、ダニエル・セバージョ、ハビエル・ベルトウッチ、ホセ・ブリトの10名の候補と38政党を召喚し、8月2日午後2時TSJの選挙法廷に出頭する日程を明示し、各自の主張する投票関連文書、記録を提出するよう命じました。日程は、7日、8日、9日の3日間で、順次公聴会をおこなうことが候補者と政党に通知されました。

8月2日のTSJ選挙法廷には、10名の候補者のうち、エドムンド・ゴンサーレスを除き9名が出席しました。出席した候補者は、エンリケ・マルケス候補を除き、結果の鑑定を実施するために必要な証拠と証明書を提示し、協力することを書面で約束しました。エドムンド・ゴンサーレスとエンリケ・マルケスは、非協力の態度を取ったのでした。

また、同日、最高裁判所の選挙法廷は、7月28日に行われた選挙に関する調査の一環として、全国選挙管理委員会（CNE）に対し、72時間以内に投票集計記録、最終集計記録、判断記録、選挙勝利者記録を選挙法廷に提出するよう求めました（24.08.02 Globovisión）。CNEは、同時にCNEがサイバー攻撃を受けたこと、このことに関する書類を受け取るために、8月5日月曜日から日曜日まで、両日を含めて24時間、選挙管理委員会の事務所を開放することを決定しました。

#### ▶第二次選挙結果の発表

8月2日全国選挙管理委員会は、選挙結果通知率96.87%における10人の立候補者の第2次投票結果を次のように発表しました。

1. 大祖国戦線、ニコラス・マドゥーロ 6,408,844 票、得票率 51.95 %
2. 統一プラットフォーム、エドムンド・ゴンサーレス 5,326,104 票、得票率 43.18 %

3. 民主行動党(AD) ルイス・エドゥアルド・マルティネス 152,360 票、得票率 1.24%
4. 鉛筆前進進歩党、アントニオ・エカリ 116,421 票、得票率 0.94%
5. 全国民主連盟党、ベンハミン・ラウセオ 92,903 票、得票率 0.75%
6. ベネズエラ・ファースト党、ホセ・ブリト 84,231 票、得票率 0.68%
7. 変革の党、ハビエル・ベルトウッシ 64,452 票、得票率 0.52%
8. 解決党、クラウディオ・フェルミン 40,902 票、得票率 0.33%
9. 中心党、エンリケ・マルケス 29,611 票、得票率 0.24%
10. 人民意思党 (VP) 、ダニエル・セバーヨス 20,056 票、得票率 0.16%

CNE は、また、世界各地から選挙管理委員会当局と県の主要通信会社の技術インフラに対する大規模なサイバー攻撃があり、集計表の送信と結果の公表が遅れたことを非難しました (24.08.02 Globovisión)。

しかし、極右の統一プラットフォームのゴンサーレス陣営と、ベネズエラ共産党が推す中心党のエンリケ・マルケスは、この CNE の第二次発表を、完全に無視しました。

#### ▶最高裁選挙法廷開催

最高裁選挙法廷の公聴会は、8月7日、エドモンド・ゴンサーレス、新時代党のマヌエル・ロサーレス、民主統一会議のホセ・ルイス・カルタヤ、ベネズエラ運動のホセ・シモン・カルサディージャが招集されましたが、エドモンド・ゴンサーレスは出席せず、民主統一プラットフォーム傘下の3名は、投票結果資料の提出を拒みました。公聴会に召喚された38の政治団体のうち、資料を提出したのは、次の33団体でした (24.08.10 Telesur)。

ベネズエラ・ファースト党、正義第一運動、ベネズエラ改革連合、ベネズエラ統一党、民主行動党、COPEI、共和国運動、赤旗党、国民民主主義右翼、全国選挙連合、国民意思党、アレパ党、変革希望党、ベネズエラ解決党、変革党、進歩的前進党、ベネズエラ環境運動、近隣地区党、コンデ党、ベネズエラ社会主義統一党、ツパマロス、万人のための祖国党、われわれはベネズエラ運動、真正刷新党、ポデーモス、緑の党、ベネズエラ愛国党、人民選挙運動、未来ベネズエラ党、ベネズエラ共産党、ベネズエラ人民統一党、変革同盟、民主連邦党。

9日、マドゥーロ大統領、ベネズエラ社会主義統一党は、手持ちの選挙記録をすべて選挙法廷に提出しました。ロドリゲス最高裁長官は、鉛筆前進進歩党と中心党が必要な選挙資料を提出しておらず、また元候補者では、鉛筆前進進歩党のエカリと中心党のマルケスも

提出していないと指摘しました（24.08.11 Telesur）。エカリ候補は、その理由を、サブ検事総長に法廷で侮辱されたからだと述べています。

同日、ロドリゲス最高裁長官は、声明で、極右政治組織スマテ(SUMATE)が、民主統一プラットフォームの技術諮問チームの一員であることを指摘しました。スマテは、ベネズエラの極右組織で、歴史的に米國務省や全米民主主義基金（NED 海外で民主化. 促進のための助成金支援を行う）とつながっており、市民社会を装って CIA の現地機関として活動しています。マリア・コリーナ・マチャドは、スマテの重要人物です（24.08.11 Telesur）。

### ▶今後の展望

このように、8月7日以降の公聴会での立候補者、政党の各自の選挙結果資料の提出状況を見ると、最高裁選挙法廷に非協力的な候補者は、エドムンド・ゴンサーレスが欠席、不提出、鉛筆前進進歩党のアントニオ・エカリと中心党のエンリケ・マルケスが出席するも不提出で、3候補者、3政党です。但し、エカリ候補は、選挙自体が不正選挙とは言っていない。エドムンド・ゴンサーレス、マリア・コリーナの民主プラットフォーム陣営は、選挙前に選挙結果を尊重する合意に署名せず、最高裁選挙法廷に協力する署名にも署名せず、最高裁選挙法廷に出席もせず、選挙結果の資料も提出せず、選挙は不正だったと主張する、全面的な対決を示した唯一の政治勢力です。ともかく選挙結果、政府機関、司法機関を認めず、国民の中に不満をかきたて、暴動を起こし、内戦に持ち込み、海外の介入を引き出すのが目的のようです。

選挙規定では、CNE は、選挙後 1 カ月以内に、各種選挙記録を公表することになっていますが、最高裁選挙法廷は、各候補者と政党により提出された選挙資料の検討結果を、数日中に発表すると述べています。

民主プラットフォーム陣営の集計の欺瞞、外国からのすさまじいサイバー攻撃の実態、アメリカ政府の干渉、カーター・センターの監視報告の問題点、双方の陣営の思想的背景は、次回に記載します。

（2024年8月13日新藤通弘）

